

名瀬測候所長のホームページをご利用いただき、ありがとうございます。所長の木村誠治（きむらせいじ）です。

名瀬測候所は、明治 29 年に「大島測候所」として設置されて以降、観測や予報などの気象業務を続けており、特に観測は 130 年近くに亘って絶え間なく継続しています。奄美における気象の経年変化を知ることができるだけでなく、地球温暖化の監視を行う地点（全国で 41 地点）の 1 つとして指定されており、長期的な気候変動の監視にも役立てられています。



近年、地球温暖化の進行により豪雨災害が激甚化・頻発化しており、全国各地で毎年のように甚大な気象災害が発生しています。奄美地方でも昨年は 6 月と 7 月に線状降水帯が発生し、記録的な大雨によって土砂崩れなどの大きな被害が発生しました。また、気象災害だけでなく、前回の地震から 70 年以上が経過した南海トラフ地震の発生が懸念されます。

気象庁では、線状降水帯に関する取組の強化や巨大地震への対策の強化を行っていますが、自分や大切な家族・友人の命を自然災害から守るには、「自らの命は自らが守る」という意識のもと一人一人が自然災害と向き合い、日ごろからハザードマップなどで自分の周りに潜む自然災害のリスクを知っていただくことが大切だと思っています。

名瀬測候所では、自然現象による被害を防止・軽減し、奄美地方の皆さまの安心・安全を確保するため、引き続き、県、市町村、防災関係機関や報道機関と連携し、職員一丸となって地域に根差したきめ細やかな取り組みを進めてまいりますので、今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

令和 6 年 4 月
名瀬測候所長
木村 誠治